

5 森林教室・今後の取組み課題

—— アンケート調査から ——

市浦営林署 ○ 泉谷勝幸

1 課題を取りあげた背景

当署管内は、歴史的にも古く中世の時代に安東水軍が活躍され、この安東文化のロマンが蘇る歴史民族史料館などがある『中の島ブリッチパーク』や滋味豊かな十三湖名物で、良質で身が肥えて健康食品としても人気のある『シジミ貝』産地の市浦村と、津軽国定公園に指定されている海拔229mの断崖絶壁の美しい『権現崎』、キラキラとまるで銀鱗を飛ばしたような『七ツ滝』、国道339号線の竜泊ラインの中間程に、眺めは実に壮観で岩木山、七里長浜、日本海、津軽海峡が一望できる『眺瞰台』、更には漁り火でも有名な小泊村の2ヶ村で県内でも非常に過疎な地域となっているが、毎年県内外からの観光客が、春から秋にかけて沢山訪れている。

一方、森林・林業に対する国民の関心も非常に高くなってきており、国有林の果たす役割が大切であること、地域住民の営林署に対する期待も大きいことから、当署経営方針の中にある『地域社会と国有林の連携強化を図る』・『職員の参画意識を醸成し、活力ある職場づくりに努める』という目的達成に向けた年度計画を樹てて、森林教室の開催や地域のイベント計画に積極的に取り組むために、今までの反省も含めて発表するものである。

2 今年度における取組方法と経過

平成7年度の計画については下表のとおりとなっている。

no	イ ベ ン ト 名	イ ベ ン ト 内 容
1	森林教室と国有林のPR	管内の縄文沼周辺での森林教室と治山事業（堰堤・海岸砂防林の見学会）
2	第4回親子登山の集い (市浦村教育委員会との共催)	管内のシンボリック的存在となっている『木無岳』への登山で、親子での森林観察（森林教室）及び健康増進に努める
3	第15回『市浦村ふるさとまつり』への参画	「市浦村ふるさとまつり」へ参画し、営林署コーナーを設け、国有林のPRと一署一品の展示即売をする

(1) 森林教室と国有林のPRについて

これについては、相内小学校高学年の4年生～6年生を対象に7月実施する予定で学校側の行事のため2学期に延期しましたが、今度は営林署側の行事等で実施できなかったことやアンケート調査ができなかったことは大変残念でした。

(2) 親子登山の集いについて

「親子登山の集い」は平成6年9月10日（土曜日）に開催し、設営隊を含め総勢62名参加しました。

この集いは平成3年度から始まり今年度は第4回目となり、微増ではありますが、回を重ねる毎に参加者は増えています。

今年度については、昨年度と趣向を変え「木無岳周辺の植生」を営林局指導普及課の協力を得ながら、平成6年9月2日に登山口から山頂にかけて203種類の植生を調査しました。時期的に秋の調査のため、花がついていないために調査出来なかったものが40種類程度ありますが、これについては来年度の春に調査することになっている。

また、同時に採取した植物標本（3冊）を作成したほか、主なものを掲載したカラーコピーによる「木無岳の植物」のパンフレット25部を作成し現地へ15部持参しましたが、参加者から講評を得て当初販売を考えていたものが今回に限り無料配布せざるを得ませんでした。

登山中に行われた「樹木当てクイズ」は10問出しましたが、さすが国有林に近いところに住んでいる親子たちで、9割程度の正解率であり感心しました。昼食後は営林署で準備した鋸による「丸太切り」に興じて楽しい一日を過ごしました。

(3) 市浦村ふるさとまつりについて

今年度15回目をかぞえる「市浦村ふるさとまつり」は、平成6年11月4日から6日までの3日間市浦村コミュニティセンター（略称コミセン）で開催されました。

当市浦営林署が参画したのは数年前からであります。会場の一角（約3坪）に営林署コーナーを設け、今年度の特色は森林のパネル展のほかに親子登山で作成した「木無岳周辺の植生」・「木無岳の植物」の展示と一署一品の展示即売を行った。

当署では準備不足のため、ヒバの盆栽（大2個）展示したが、価格が高いために収入はゼロでしたが、国有林をPRするために隣接署などの協力を得て、「ヒバの盆栽」30個、「ケヤキの表札」15枚については完売することができました。

また、関係団体から依頼を受けて展示している「ヒバ油」や「石鱈」などの売れ行きも好評を得たことも付け加えておきます。

3 実行の結果

今年度における森林教室などのイベントについては、

- (1) 先程も申す上げたように、計画されたものが諸般の事情により開催できなかったこと。
- (2) 日常業務の繁忙や準備不足などから「アンケート調査」が実施できなかったこと。
- (3) 準備不足のために「一署一品」など署独自の製品が不足し、隣接署の協力を得たこと。
- (4) 職員一丸となった取り組みをしているところであるが、開催日が土曜日など休日となることが多いことから参加人員に限度があったこと。

などの点があげられます。

4 考 察

以上のことから、反省する点は多々あるものの、創意工夫をこらして内容を充実したことと、来年度以降については職員一丸となって取組を強化していくことになっている点を評価していただくとともに、地域とのふれあいを図る中から地元住民の国有林に対する理解と協力を得るための努力をして参りたいと考えています。

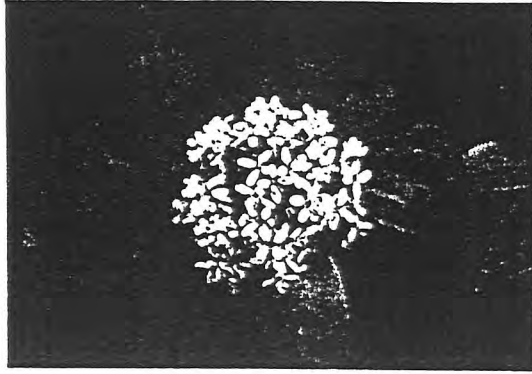
最後に営林局指導普及課の皆さんのご指導ご協力に感謝を申し上げ、森林教室・今後の取組課題の発表を終わります。

◎ 関連する参考資料

- ① 木無岳の植物（カラー20ページ）
- ② 木無岳周辺の植生（203種類）
- ③ 木無岳植物標本（3冊）
- ④ 「親子登山の集い」、「ふるさとまつり」のスナップ写真

平成6年度

木無岳の植物



ツルシキミ (みかん科)

シキミは、果実が有毒なので悪しき果の意味で、アが省略されてシキミとなったと言われる。

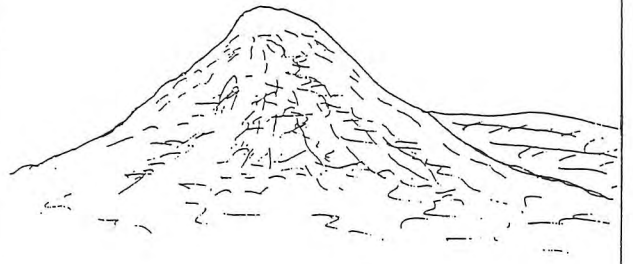
ツルは、北国は雪等に押されてつる状になるから。

平成6年9月2日(金)調査

市 浦 営 林 署

第4回親子登山の集い記念

木無岳周辺の植生



平成6年9月2日調査

市 浦 営 林 署

①

木無岳植物標本

②

木無岳植物標本

③

木無岳植物標本



ななかまど